参考資料６－２

次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）

（平成２８年８月１日教育課程部会教育課程企画特別部会資料３－１）

（国語関係抜粋）

（２）各教科・科目等の内容の見直し

①国語

（ｉ）現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた国語科の目標の在り方

（ア）現行学習指導要領の成果と課題

○　平成２４年（２０１２年）に実施されたＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査（ＰＩＳＡ調査）においては，「読解力」の平均得点が比較可能な調査回以降，最も高くなっているなどの成果が見られる。また，全国学力・学習状況調査においては，各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置付けた学校の割合は，小学校，中学校ともに９０％程度となっており，言語活動の充実を踏まえた授業改善が図られている。しかし，依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり，更なる授業改善が求められる。

○　全国学力・学習状況調査等の結果によると，小学校では，文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること，目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題があることが明らかになっている。中学校では，伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや，複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること，文章を読んで根拠の明確さや論理の展開，表現の仕方等について評価することなどに課題があることが明らかになっている。

○　高等学校では，教材への依存度が高く，主体的な言語活動が軽視され，依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があり，授業改善に取り組む必要がある。また，文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること，多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること，国語の語彙の構造や特徴を理解すること，古典に対する学習意欲が低いことなどが課題となっている。

○　今回の学習指導要領の改訂においては，これまでの成果を踏まえるとともに，これらの課題に適切に対応できるよう改善を図ることが求められる。その際，思考力・判断力・表現力等の育成を効果的に図るため，引き続き，記録，要約，説明，論述，討論等の言語活動の充実を図ることが必要である。

（イ）課題を踏まえた国語科の目標の在り方

○　国語科において育成すべき資質・能力については，前述の３．（５）①に示す言語能力を構成する資質・能力の整理を踏まえ，「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力や人間性等」の三つの柱に沿った整理を行い，別添２－１のとおり取りまとめた。

・「知識・技能」の「言葉の働きや役割に関する理解」は，自分が用いる言葉に対するメタ認知に関わることであり，言語能力を向上させる上で重要な要素である。このこ

とは，これまでの学習指導要領においても扱われてきたが，実際の指導の場面において十分なされてこなかったことが指摘されている。

・これからの子供たちには，創造的・論理的思考を高めるために，「思考力・判断力・表現力等」の「情報を多角的・多面的に精査し構造化する力」がこれまで以上に必要とされるとともに，自分の感情をコントロールすることにつながる「感情や想像を言葉にする力」や，他者との協働につながる「言葉を通じて伝え合う力」など，三つの側面の力がバランスよく育成されることが必要である。

また，より深く，理解したり表現したりするためには，「情報を編集・操作する力」，「新しい情報を，既に持っている知識や経験，感情に統合し構造化する力」，「新しい問いや仮説を立てるなど，既に持っている考えの構造を転換する力」などの「考えを形成し深める力」を育成することが重要である。

○　これを踏まえ，学校段階ごとに育成すべき資質・能力について別添２－２のとおり整理した。学校段階ごとの国語科の教科目標についても，このような資質・能力の整理に基づき示すこととする。

○　なお，小・中学校においては，文字の由来や文字文化に対する理解を深めることについて，高等学校においては，実社会・実生活に生かすことや多様な文字文化に対する理解を深めることについて，高等学校芸術科（書道）との円滑な接続を図る必要がある。

（ウ）国語科における見方・考え方

○　国語科は，様々な事物，経験，思い，考え等をどのように言葉で理解し，どのように言葉で表現するか，という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象とするという特質を有している。それは，様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的とするものではないことを意味している。

○　事物，経験，思い，考え等を言葉で理解したり表現したりする際には，創造的・論理的思考，感性・情緒，他者とのコミュニケーションの側面[59]から，言葉の意味，働き，使い方等に着目して，対象と言葉，言葉と言葉の関係を捉え，その関係性を問い直して意味付けるといったことが行われており，そのことを通して，自分の思いや考えを形成し深めることが，国語科における重要な学びであると考えられる。

---

[59] 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会言語能力の向上に関する特別チームにおいて，これまでの各種会議等（文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」（平成１６年２月３日）等）の議論の成果を踏まえ，言語能力を構成する資質・能力について，①創造的・論理的思考の側面，②感性・情緒の側面，③他者とのコミュニケーションの側面の三つの側面から整理されたことを受け，本ワーキングループにおいても，同様の整理をしている。

○　このため，自分の思いや考えを深めるために，創造的・論理的思考，感性・情緒，他者とのコミュニケーションの側面から，言葉の意味，働き，使い方等に着目して，対象と言葉，言葉と言葉の関係を捉え，その関係性を問い直して意味付けることを，「言葉による見方・考え方」とする。

（ⅱ）具体的な改善事項

（ア）教育課程の構造化

(a) 資質・能力を育成する学習過程の在り方

○　国語科においては，ただ活動するだけの学習にならないよう，活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すため，別添２－３のとおり，現行の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理し，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の３領域における学習活動の中で，三つの柱で整理した資質・能力がどのように働いているかを含めて図示した。

その際，「認識から思考へ」という過程の中で働く理解するための力や，「思考から表現へ」という過程の中で働く表現するための力が，各領域の中で，主にどこで重点的に働いているのかを踏まえて示している。

○　「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」のいずれの学習過程においても，「情報を編集・操作する力」，「新しい情報を，既に持っている知識や経験，感情に統合し構造化する力」，「新しい問いや仮説を立てるなど，既に持っている考えの構造を転換する力」を働かせ，考えを形成し深めることが特に重要である。

○　これらの一連の学習過程を実施する上では，別添２－１に整理された資質・能力の三つの柱のうち「学びに向かう力，人間性等」が大きな原動力となる。「学びに向かう力，人間性等」で挙げられている態度等が基盤となって，子供が自ら次の学習活動に向かおうとする意識が生まれ，「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」の育成が図られる。また，これらの過程を意識的に行うことを通じて，より一層「学びに向かう力，人間性等」が育まれ，更に次の学習活動に向かう意欲が高まるなどの正の循環が見込まれる。

○　国語科においては，こうした学習活動は言葉による記録，要約，説明，論述，討論等の言語活動を通じて行われる必要がある。したがって，国語科で育成すべき資質・能力の向上を図るためには，資質・能力が働く一連の学習過程をスパイラルに繰り返すとともに，一つ一つの学習活動において資質・能力の育成に応じた言語活動を充実することが重要である。

(b) 指導内容の示し方の構造

○　学校段階ごとに育成すべき「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」（別添２－２）に基づき教科の「目標」を示すとともに，子供

たちを社会に送り出すまでに国語科においてどのような力を身に付けさせるのかを明確にした上で，小・中・高等学校の教科内容を系統的に示す。

○　学習指導要領の「内容」に関しては，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の３領域において育成される資質・能力としての「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」を明示するとともに，別添２－３に示す国語科の学習過程を踏まえ，どのような学習過程を通じてどのような「思考力・判断力・表現力等」を身に付けさせるのかを示す。

（イ）教育内容の改善・充実

(a) 科目構成の見直し

○　高等学校の国語教育においては，教材の読み取りが指導の中心になることが多く，国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと，話合いや論述などの「話すこと・聞くこと」，「書くこと」の領域の学習が十分に行われていないこと，古典の学習について，日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く，学習意欲が高まらないことなどが課題として指摘されているところである。

こうした長年にわたり指摘されている課題の解決を図るため，科目構成の見直しを含めた検討が求められており，別添２－１に示した資質・能力の整理を踏まえ，以下のような科目構成とする。（別添２－４を参照）

なお，以下の科目構成の説明において，「学びに向かう力，人間性等」については特に言及していないが，全ての科目において育成されるものである。

○　国語は，我が国の歴史の中で創造され，上代から近現代まで継承されてきたものであり，そして現代において実社会・実生活の中で使われているものである。このことを踏まえ，後者と関わりの深い実社会・実生活における言語による諸活動に必要な能力を育成する科目「現代の国語（仮称）」と，前者と関わりの深い我が国の伝統や文化が育んできた言語文化を理解し，これを継承していく一員として，自身の言語による諸活動に生かす能力を育成する科目「言語文化（仮称）」の二つの科目を，全ての高校生が履修する必履修科目として設定する。

○　必履修科目「現代の国語（仮称）」は，実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目として，「知識・技能」では「伝統的な言語文化に関する理解」以外の各事項を，「思考力・判断力・表現力等」では全ての力を総合的に育成する。

○　必履修科目「言語文化（仮称）」は，上代（万葉集の歌が詠まれた時代）から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める科目として，「知識・技能」では「伝統的な言語文化に関する理解」を中心としながら，それ以外の各事項も含み，「思考力・判断力・表現力等」では全ての力を総合的に育成する。

○　選択科目においては，必履修科目「現代の国語（仮称）」及び「言語文化（仮称）」において育成された能力を基盤として，「思考力・判断力・表現力等」の言葉の働きを捉える三つの側面のそれぞれを主として育成する科目として，「論理国語（仮称）」，「文学国語（仮称）」，「国語表現（仮称）」を設定する。

　また，「言語文化（仮称）」で育成された資質・能力のうち「伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため，ジャンルとしての古典を学習対象とする「古典探究（仮称）」を設定する。

○　なお，必履修科目である「現代の国語（仮称）」及び「言語文化（仮称）」において育成された能力は，特定の選択科目ではなく全ての選択科目につながる能力として育成されることに留意する必要がある。

○　選択科目「論理国語（仮称）」は，多様な文章等を多角的・多面的に理解し，創造的に思考して自分の考えを形成し，論理的に表現する能力を育成する科目として，主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する。

○　選択科目「文学国語（仮称）」は，小説，随筆，詩歌，脚本等に描かれた人物の心情や情景，表現の仕方等を読み味わい評価するとともに，それらの創作に関わる能力を育成する科目として，主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する。

○　選択科目「国語表現（仮称）」は，表現の特徴や効果を理解した上で，自分の思いや考えをまとめ，適切かつ効果的に表現して他者と伝え合う能力を育成する科目として，主として「思考力・判断力・表現力等」の他者とのコミュニケーションの側面の力を育成する。

○　選択科目「古典探究（仮称）」は，古典を主体的に読み深めることを通して，自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する科目として，主に古文・漢文を教材に，「伝統的な言語文化に関する理解」を深めることを重視するとともに，「思考力・判断力・表現力等」を育成する。

○　また，「古典探究（仮称）」以外の選択科目においても，高等学校で学ぶ国語の科目として，探究的な学びの要素を含むものとする。

○　なお，高校生の読書活動が低調であることなどから，各科目において，高校生がそれぞれの読書の意義や価値について実感を持って認識することにつながるような指導の充実，読書活動の展開が必要である。

(b) 教育内容の見直し

○　多くの語彙や多様な表現に触れたり，未知のことを知ったり，疑似体験したり，新しい考えに出合ったりして，国語科で育成すべき資質・能力をより高める重要な活動の一つが読書である。自ら進んで読書をし，読書を通して人生を豊かにしようとする態度を

養うために，国語科の学習が読書活動に結び付くよう小・中・高等学校を通じて読書指導を改善・充実するとともに，教育課程外の時間においても，全校一斉の読書活動など子供たちに読書をする習慣が身に付くような取組を推進する必要がある。

○　漢字指導の改善・充実の観点から，児童の学習負担を考慮しつつ，常用漢字表の改定（平成２２年），児童の日常生活及び将来の社会生活，国語科以外の各教科等の学習における必要性を踏まえ，都道府県名に用いる漢字を「学年別漢字配当表」に加えることが適当である。なお，追加する字種の学年配当に当たっては，当該学年における児童の学習負担に配慮することが必要である。

○　現行の学習指導要領では，国語科においても我が国や郷土が育んできた伝統文化に関する教育を充実したところであるが，引き続き，我が国の言語文化に親しみ，愛情を持って享受し，その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を小・中・高等学校を通じて育成するため，伝統文化に関する学習を重視することが必要である。

伝統文化に関する学習については，小・中・高等学校を通じて，古典に親しんだり，楽しんだり，古典の表現を味わったりする観点，古典についての理解を深める観点，古典を自分の生活や生き方に生かす観点，文字文化（書写を含む）についての理解を深める観点から整理を行い，改善を図ることが求められる。

○　現行の学習指導要領においては，全ての教科等において言語活動を重視し充実を図ってきたところであるが，今後，「アクティブ・ラーニング」の三つの視点からの指導の改善・充実を実現していくためには，より一層，言語活動の充実を図り，全ての学習の基盤である言語能力を向上させることが必要不可欠である。

このため，国語科が，中心的役割を担いながら他教科等と連携して言語能力の向上を図るとともに，国語科が育成する資質・能力が各教科等において育成する資質・能力の育成にも資することがカリキュラム・マネジメントの観点からも重要である。

○　このほか，地域の言語文化に関する学習の充実，情報の取扱いなどを含む言葉を取り巻く環境の変化を踏まえた学習の充実等が求められる。

（ウ）学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

（a）主体的・対話的で深い学びの実現

○　国語教育の改善・充実を図るためには，「アクティブ・ラーニング」の三つの視点から以下のような学びが実現できているか，その学習過程の質的改善に向けて不断に見直すことが重要である。言語能力を育成する国語科においては，言語活動を通して資質・能力を育成する。このため，国語科における「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善とは，「アクティブ・ラーニング」の視点から言語活動を充実させ，学習過程を質的に改善することであると言える。

① 「深い学び」の実現に向けて，「言葉による見方・考え方」を働かせ，言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることなどが考えられる。その際，子供自身が自分の思考の過程をたどり，自分が話したり聞いたり書いたり読んだりした言葉を，創造的・論理的思考の側面，感性・情緒の側面，他者とのコミュニケーションの側面からどのように捉えたのか問い直して，理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めることが重要であり，特に，思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにすることなどが重要である。

② 「対話的な学び」の実現に向けて，例えば子供同士の対話に加え，子供と教員，子供と地域の人，本を通して本の作者などとの対話を図ることで，互いの知見を伝え合ってそれぞれが持つ知見を広げたり，議論しながら互いに考えを深めたり，集団としての考えを高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。

③ 「主体的な学び」の実現に向けて，子供自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう，学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けること，子供たちの学ぶ意欲が高まるよう，実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として，子供たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすることなどが考えられる。特に，学習を振り返る際，子供自身が自分の学びや変容を見取り自分の学びを自覚することができ，説明したり評価したりすることができるようになることが重要である。

(b) 教材や教育環境の充実

○ 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実のためには，教材の在り方を見直すことが必要である。

学習指導要領には，「読むこと」以外にも「話すこと・聞くこと」，「書くこと」の領域があるにもかかわらず，依然として授業が「読むこと」の指導に偏っている傾向がある。国語科の授業が言語活動を通じて資質・能力を育成する授業となるよう，教材の改善・充実を図ることが求められる。

次期学習指導要領の趣旨を実現するため，主たる教材である教科書において，授業の中で言語活動が一層充実するような教材提示の在り方や，同じ題材においても，育成すべき資質・能力や様々な言語活動を，教員が指導に応じて選べるような教材の在り様などが求められる。

高等学校の科目構成の見直しに応じて，それぞれの科目の趣旨が実現されるよう，教材の在り方を検討することが求められる。

○ 資質・能力の育成を図るためには，教員養成や教員研修による教員の資質・能力の向上，学校図書館やＩＣＴ環境の整備・充実などの条件整備が求められる。

国語科において育成すべき資質・能力の整理（案）

別添２－１

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
○言葉の働きや役割に関する理解 ○言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け ・書き言葉（文字）、話し言葉、言葉の位相（方言、敬語等） ・語、語句、語彙 ・文の成分、文の構成 ・文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係） など ○言葉の使い方に関する理解と使い分け ・話し方、書き方、表現の工夫 ・聞き方、読み方、音読・朗読の仕方 ・話合いの仕方 ○書写に関する知識・技能 ○伝統的な言語文化に関する理解 ○文章の種類に関する理解 ○情報活用に関する知識・技能	国語で理解したり表現したりするための力 【創造的・論理的思考の側面】 ➢情報を多角的・多面的に精査し構造化する力 ・推論及び既有知識・経験による内容の補足、精緻化 ・論理（情報と情報の関係性：共通－相違、原因－結果、具体－抽象等）の吟味・構築 ・妥当性、信頼性等の吟味 ➢構成・表現形式を評価する力 【感性・情緒の側面】 ➢言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 ➢構成・表現形式を評価する力 【他者とのコミュニケーションの側面】 ➢言葉を通じて伝え合う力 ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解 ・自分の意思や主張の伝達 ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り ➢構成・表現形式を評価する力 ≪考えの形成・深化≫ ➢考えを形成し深める力（個人または集団として） ・情報を編集・操作する力 ・新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力 ・新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力	・言葉が持つ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉が持つ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度 ・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度 ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通して、心を豊かにしようとする態度 ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度 ・我が国の言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度 ・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、未知のことを知ったり、疑似体験したり、新しい考えに出会ったりするなどして人生を豊かにしようとする態度

国語科における教育のイメージ（案）

別添２－２

【高等学校】

◎言葉による見方・考え方を働かせ、国語で的確に理解し効果的に表現することを通して、国語に関する資質・能力を次のとおり育成する。

①生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。

②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、多様な他者や社会との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。

③言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚を持ち、言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【中学校】

◎言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現することを通して、国語に関する資質・能力を次のとおり育成する。

①社会生活に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。

②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、社会生活における人との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。

③言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに、言語文化に関わり、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【小学校】

◎言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現することを通して、国語に関する資質・能力を次のとおり育成する。

①日常生活に必要な国語の特質について理解し使うことができるようにする。

②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、日常生活における人との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。

③言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに、言葉の大切さを自覚し、言語感覚を養い、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【幼児教育】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるもの記述）

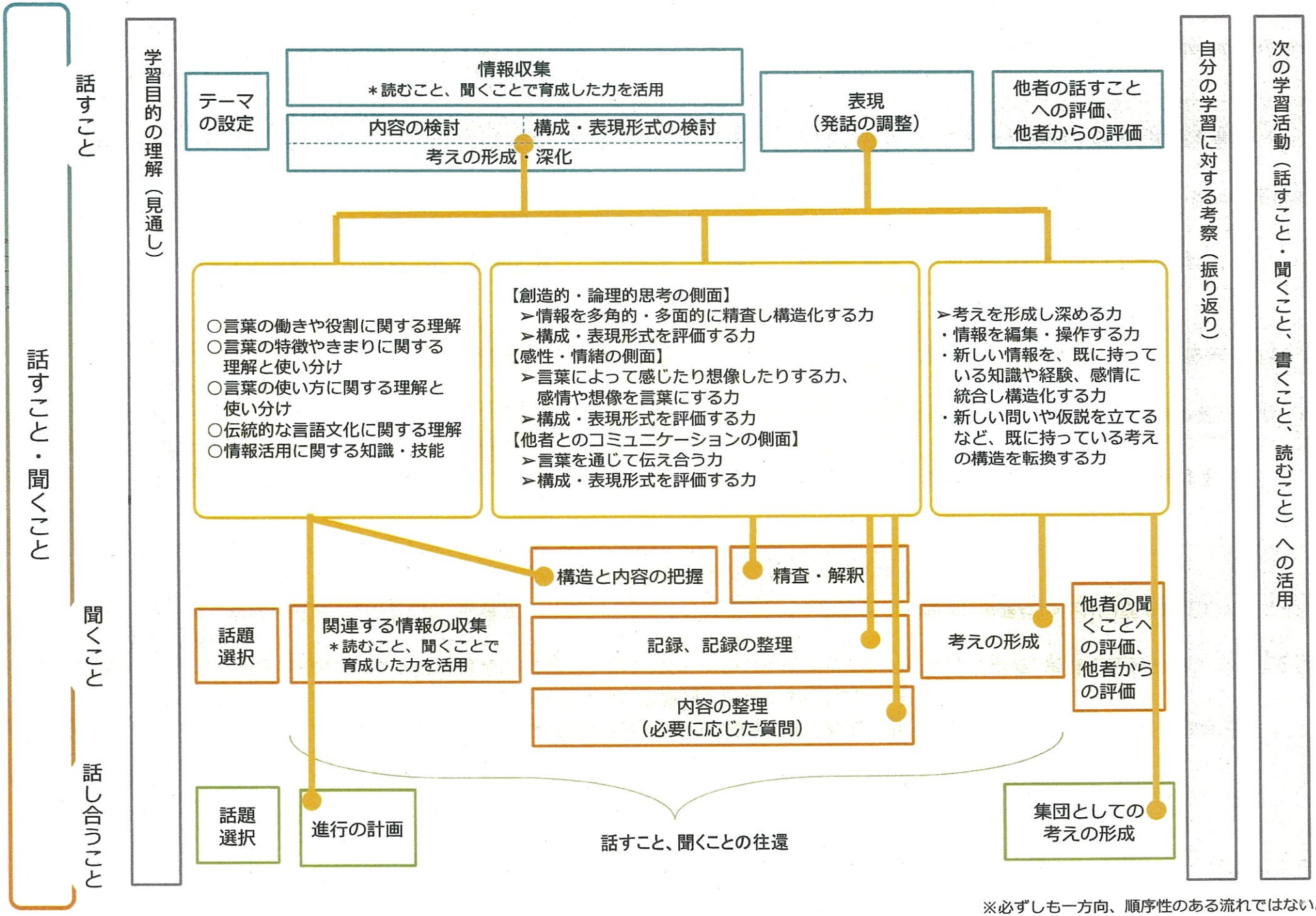
・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとしたり考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。（思考力の芽生え）

・遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。（数量・図形、文字等への関心・感覚）

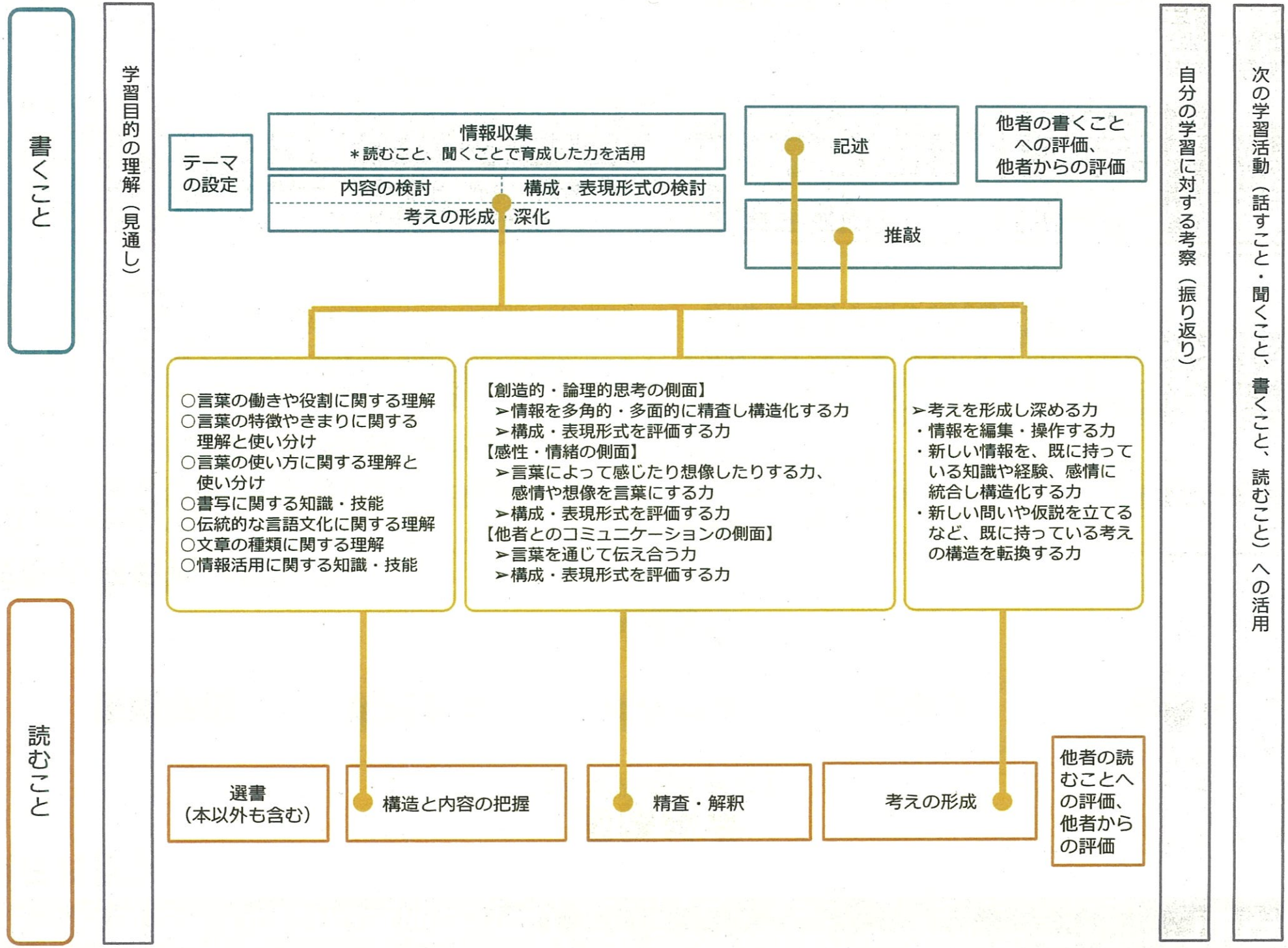
・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたりしたことなどを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。（言葉による伝え合い）

国語科における学習過程のイメージ（案）

別添２－３



※必ずしも一方向、順序性のある流れではない。



※必ずしも一方向、順序性のある流れではない。

高等学校国語科の改訂の方向性（案）

別添２－４

≪現行科目≫

国語総合
【共通必履修科目】

国語表現　現代文Ａ　現代文Ｂ　古典Ａ　古典Ｂ

≪改訂の方向性（案）≫

必履修科目（案）

【現代の国語（仮称）】
実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目

○実社会・実生活における言語による諸活動に必要な国語の能力の育成
○例えば、
・目的に応じて多様な資料を収集・解釈し、根拠に基づいて論述する活動
・文学作品等を読んで、構成や展開、優れた表現などの効果について言葉の意味や働きに着目して批評する活動
・根拠を持って議論し互いの立場や意見を認めながら集団としての結論をまとめる活動
等の重視

【言語文化（仮称）】
上代（万葉集の歌が詠まれた時代）から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める科目

○我が国の伝統や文化が育んできた言語文化を理解し、これを継承していく一員として、自身の言語による諸活動に生かす能力の育成
○古典（古文・漢文）だけでなく、古典に関わる近現代の文章を通じて、言語文化を、言葉の働きや役割に着目しながら社会や自分との関わりの中で生かすことのできる能力の育成

選択科目（案）

【論理国語（仮称）】
多様な文章等を多角的・多面的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成する科目

（主として、創造的・論理的思考の側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成）

【文学国語（仮称）】
小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作に関わる能力を育成する科目
（主として、感性・情緒の側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成）

【国語表現（仮称）】
表現の特徴や効果を理解した上で、自分の思いや考えをまとめ、適切かつ効果的に表現して他者と伝え合う能力を育成する科目

（主として、他者とのコミュニケーションの側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成）

【古典探究（仮称）】
古典を主体的に読み深めることを通して、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する科目

（ジャンルとしての古典を学習対象として「思考力・判断力・表現力等」を 総合的に育成）